

議事(1) 第5回高齢者福祉専門分科会(書面開催)の結果について

資料1
前橋市社会福祉審議会 第6回高齢者福祉専門分科会（R2.8.25）

1 【第5回_資料1】(1)第4回分科会(書面開催)の結果について

意見内容	回答
・(1)②(在宅介護実態調査)について、回答は資料のどこに記載されているのか。	「どの時間帯にどのサービスが必要かを具体的に知りたい。」というご意見をいただきましたが、在宅介護実態調査の質問項目には時間帯に関するものがないため、本調査の結果からは把握ができない部分となります。なお、本調査は国から調査票・集計ソフト等が提供され、全国で統一の実施されているものです。
・地域包括支援センターの周知は、対象の年代を絞るなど効果的に行った方が良い。	サロン等の高齢者が集まる場に出向いて地域包括支援センターのパンフレットを配布して周知を行っています。今後も必要な方に必要な情報が伝えられるような周知方法を検討したいと考えます。

2 【第5回_資料2-1】第7期の分析・評価について①第7期介護保険事業

意見内容	回答
・居宅療養管理指導料、通所介護は計画値を上回り、通所リハ、地域密着、施設は下回った結果をどう解釈しているか。	○事業所数について、この2年間で通所リハは4箇所減少、地域密着型通所介護は6箇所減少し、通所介護は14箇所増加しています。 ○リハビリ特化型の通所介護事業所が増えており、通所介護の増加、通所リハの減少につながっていると考えられます。 ○住宅型有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅の数が増加しており、入居者が併設の通所介護サービスを利用したり、往診等で居宅療養管理指導のサービスを受けたりすることが多いと考えられます。 ○定期巡回・随時対応型訪問介護看護は、併設住宅へのサービス提供のみにとどまり、外部の在宅利用者へのサービス提供が広がっておらず計画値を下回っています。 ○小規模多機能型居宅介護は、第6期計画で単独の小規模事業所を公募したところ応募がなかったため、未整備分が影響して計画値を下回ったものと思われます。 ○認知症対応型共同生活介護については、グループホームの施設数・定員数は概ね計画どおり整備されているものの、人員不足等により一部を休止している施設があり、計画値を下回っています。 ○第6期計画の未整備分があるなど整備が遅れており、施設サービスの件数は計画値を下回っています。
・通所リハが計画値を下回る理由の分析が必要と思う。	リハビリ特化型の通所介護事業所が増えており、通所介護の増加、通所リハの減少につながっていると考えられます。
・実績値で通所介護が上回り、通所リハビリが下回っているのは、リハビリ特化型の通所介護が増えているからなのか。	ご指摘のとおり、リハビリ特化型の通所介護事業所が増えており、通所介護の増加、通所リハの減少につながっていると考えられます。
・コロナ禍で苦しい運営を強いられている事業所も多いと思う。コロナ前後の分析も必要。	7月下旬に市内の通所系サービス事業所に対し、新型コロナウイルス感染症に係る取組みについてアンケートを実施し、経営状況も含めた実態把握を行いました。把握した実態・ニーズに沿った支援等を検討していきます。また、毎月の給付実績等も用いながら、コロナ禍におけるサービスの利用控えなどについても分析を進めます。
・総合事業の訪問型サービスの実績が下回ったのはヘルパーステーションの人員不足が原因ではないか。	人員不足もその一因と思われます。
・施設サービスの実績値は計画値とほぼ見込みどおりと言えるのか。	他のサービスとの比較では計画と近い実績となっていたため記載しました。利用件数では計画値を下回っていると認識しています。
・プランが周りにも理解してもらえるよう広報活動に力を入れることが重要と感じた。	多くの方に知っていただくことは大切なことです。これまでも周知を行っていましたが、その他の周知方法について良いアイデアがあれば具体的にお聞かせください。

3 【第5回_資料2-2】第7期の分析・評価について②課題への取組

意見内容	回答
・在宅介護医療連携で市内高齢者施設を対象に行ったアンケートの結果を知りたい。	令和元年7月に在宅医療と救急医療の連携及び看取りについて課題抽出のためアンケートを実施しました。 (1)対象：市内高齢者施設244施設の施設長と看護・介護職員 (2)回収率：70.5% (3)主な質問項目 ①施設と主治医の連携、②救急要請を行う職種や救急隊への情報提供の準備状況、③看取りとACP、④前橋版エンディングノート「私の人生ノート」周知について (3)結果 各セクションが連携先に抱いている期待に対して互いに応えられておらず、連携が十分に取れていないことが伺えました。 (4)対策 市民と高齢者施設スタッフを含む医療介護従事者に対し救急車利用方法の啓発やACP推進に取り組むこととしました。
・市民公開講座「お看取り時期の119？」の出席者数を知りたい。	出席者数は212人でした。
・養護老人ホームのみ入所者数が書かれているが他は。	養護老人ホームへの入所者数は市が行った入所措置数です。その他の住宅型有料やサ高住等の高齢者住まいについては、現在、入居者数も含めた実態について調査しています。
・介護予防事業の効果について、要介護等認定者数等の結果に影響が出るかを検討する必要があると感じた。	介護予防事業の取組について評価を行い、8期プランでは効果を意識した目標・指標を設定します。
・介護予防事業の広報の強化が必要と感じた。	年2回発行している「ひろげよう！介護予防の輪」は第9号の発行を迎えます。また、コロナ禍で懸念されている「フレイル予防」の特集号も臨時発行しました。今後も普及啓発に努めてまいります。
・コロナ下での在宅での介護予防は重要と感じた。	体操の動画配信やフレイル予防の特集号発行を行いました。今後も新しい生活様式に基づき感染対策を踏まえた介護・フレイル予防に取り組みます。
・おうちで療養相談センターまえばしのHP開設は良いが、まだ認知度が低いと思うのでさらに周知策を練って欲しい。	おうちで療養相談センターまえばしの周知については、居宅介護支援事業所へのチラシ送付などで対応していますが、今後は多職種研修での周知と開設したHPを活用した周知を行ってまいります。
・包括的なケア体制づくりへの取組は大変評価できるが、新型コロナウイルス感染症への今後の対策を検討すべき。	8期プランでは、感染症発生時の支援体制の記載とともに、各事業において人が集う取組にも感染症対策又は代替策を記載する予定です。
・認知症カフェでの感染症対策やサポーター養成時の感染対策レクチャーも取り入れるべき。	国の感染拡大防止ガイドラインに基づき、検温、消毒、マスク着用の徹底と、アクリル板の使用、スタッフのフェイスマスク着用、使用後の消毒を徹底して行っています。また、ガイドラインの配布及び現地アドバイスを行っています。
・高齢者が外出を控える価値観が定着しつつある中、ピンジャン元気体操教室のように、集まっての介護予防活動ではなく、オンラインでの活動など新たな活動も考える必要があると感じた。	8期プランでは人が集う取組には感染症対策又は代替策を記載する予定です。
・小規模多機能型居宅介護の利用について、前橋市住民のみの利用となるため前橋郊外での設置は難しい。	制度上の運営の難しさは理解しています。現在、8期に向けて各圏域の高齢者人口やサービス給付実績等の特徴などを参考に地域密着型サービスの施設整備について検討しています。
・在宅医療介護連携の顔の見える連携づくりについて具体的に知りたい。	市内を5ブロックに分け、その地域の医療介護専門職がその時々テーマについて話し合う「医療と介護の連携会議」を各ブロック年3回程度行っています。また、医療介護専門職の情報交換会等を毎年企画しています。
・認知症カフェと認知症サポーターを活用した取組を強化して欲しい。	認知症疾患医療センター等にポスターを掲示するなど「認知症を語るカフェ」や「はつらつカフェ」の周知と利用を促進します。また、認知症サポーターの養成により認知症に関する理解を広め、地域の見守りや活動を広めることにより、認知症の方やその家族が安心して暮らせるまちづくりを目指します。
・介護予防サポーターや訪問A従事者の養成だけでなく活用する場を広げて欲しい。	訪問A従事者については研修修了者と事業所とのマッチングも行っています。また、介護予防サポーターは介護予防まつり等のイベントの実施や、ピンジャン体操クラブの運営等を行っておりますが、さらに活躍の場を拡充します。
・認知症サポーターについて様々な場で知ってもらう機会があると良いと感じた。	広報誌・ホームページで情報発信しているほか、各職域にいるキャラバンメイトと連携する中で認知症に関する課題や取組を共有し、認知症サポーターの養成を行っています。

4 【第5回_資料3】日常生活圏域の設定について
特になし

5 【第5回_資料4-1】アンケート調査結果の分析について①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

意見内容	回答
・室内での転倒について対策に結び付けられると良いと感じた。	手すり設置などの住宅工事に対する介護保険内・外の支援の他に、介護予防事業として、各種介護予防教室で使用している介護予防ブックによる啓発や、ピンシャン元気体操（特に③④）の実施による転倒予防対策を行っています。
・買い物難民への対策が必要と感じた。	地域の困りごととして「買い物」が挙げられた地域については、生活支援体制整備事業の中で対応を検討しております。
・支援が入っているのか入っていないのかを絡み合わせた結果を知りたい。	今回のニーズ調査は、各日常生活圏域の課題の特定を目的として実施しました。対象者を個別に分析するには公助、互助の支援の有無は大切な視点だと思います。次回のニーズ調査では調査項目の追加等を検討します。
・結果を基に地域に応じた介護予防プログラムとスケジュールが生まれ、各地域と情報共有できると良い。	運動器機能リスク高齢者の割合が高い地区を選定し、重点地区を定め、介護予防の取組を行います。
・各生活圏域の特徴に応じたきめ細やかな対策ができると感じた。特に新型コロナウイルスの影響により外出やサービスの利用がままならない中で、リスクの高い高齢者への対応は急務だと感じた。	8期プランでは調査結果を参考に各事業内容の改善を進めます。リスクの高い高齢者への対応では、ピンシャン元気体操教室で自宅等でも取り組めるような動画配信等による代替策をすでに行っていますが、その他の取組みでも対応を検討します。
・生活上どここの地域の社会資源を活用しているかを聞くと、圏域を超えた資源が使われていることがわかるかもしれない。	次回のニーズ調査では、日常生活圏域ごとの課題の特定をより正確に行うため、ご意見を参考に、調査項目の追加等を検討します。
・調査結果を元に住民視点に立った目標設定ができればと感じた。	調査結果を参考に、8期プランでは効果を意識した目標・指標を設定する予定です。

6 【第5回_資料4-2】アンケート調査結果の分析について②在宅介護実態調査・

意見内容	回答
・前回調査はいつか。	平成28年12月初旬から約1か月間です。
・老老介護の割合上昇への対策が必要と感じた。	老老介護対策は介護保険などの公的サービスの提供だけでなく、地域住民や多職種による支え合いが不可欠です。医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される「地域包括ケアシステム」構築の実現に向けて、各事業を一層推進します。
・介護保険外の支援・サービスについて、在宅の比較的軽度な方に対して利用方法の周知などを実施することが、重症化予防につながると感じた。	現在、主に冊子「前橋市の総合事業・高齢者福祉」により周知を行っていますが、その設置場所とともに内容について見直しを検討します。
・介護者が就労している場合、食事の用意が一番大変だと思う。	配食サービスのほか、食の自立を目指し、短期集中予防サービス（専門職の訪問個別指導）の利用等により、高齢者の意向や状況に合わせた支援を行っています。

7 その他

意見内容	回答
・外出支援についてエムダブルエス日高の太田市での取組を参考にしてはどうか。	事業について承知しており、交通部門と連携して検証しています。
・新型コロナの影響により居宅での介護や看取りの需要が増えると思うが、市の考えは。	令和2年7月に在宅における感染症対策について、訪問系サービス事業所の職員に対する研修会を実施しました。また、ACPについて、「おうちで!!まえばし医療・介護塾」等により、市民と医療介護関係者等への啓発をWeb等の手法も導入しながら進めています。 ※ACP(アドバンスケアプランニング)：自身が望む人生の最終段階における医療とケアについて本人が家族や医療・ケアチーム等と繰り返し話し合う取組み
・学生と高齢者が接する機会を増やすため、学生が参加可能なボランティアがあると良いと。例えば、ピンシャン元気体操教室など。募集にも前橋市のTwitterなどのSNSを活用する。	医療・福祉系学生の介護予防事業の見学等受入をすでに行っていますが、3密を避けつつのボランティアの受け入れについて検討します。募集手段は多くの学生の方に知ってもらえるよう検討します。